

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（令和元年度第3回）議事概要

日 時：令和元年6月28日（金）10：00～11：00

場 所：国立がん研究センター 管理棟 第1会議室

出席者：中釜斉理事長、南砂理事、児玉安司理事、松本洋一郎理事、間野博行理事、小野高史監事、増田正志監事

欠席者：北川雄光理事

I. 審議事項

1. 平成30年度決算

資料に沿って説明され、審議された。

【主な意見等】

- ・会計監査について、本日付で内容適正として両監事で意見表明をした。
- ・経営も立派な成績。主要な指標については、平均在院日数を短縮しながら平均入院患者数も増加させている。病院全体でよい数字になっているが、例えば、ブレイクダウンして診療科毎で見たときにどこがどう貢献して、在院日数が短縮したのか。
- ・中央病院としては、慢性期を減らして治療を増やしていることと、治療や手術で低侵襲が増えてきたことなどで入院期間が短くなったことが要因ではないかと推測している。
- ・東病院は、患者数が、この10年コンスタントに2%～3%で増えている。婦人科もオープンし、そこでも患者数が少し増えている。在院日数の短縮に関しては、昨年度は12日を目標にコントロールしており、入院準備外来を設けて手術の前日入院を徹底し、入院後すぐに退院計画を作成している。
- ・両院の目標の持ち方は多少違うが、患者さんの確保に加えて、様々な工夫することにより、回転を上げていると思うので、もう少し細かくデータで見ることが出来るように考えていきたいと思う。
- ・現時点では、こんなにお金が増えたのかと思うかもしれないが、実はセンターとして、今後投資計画を考えると決してお金が余っている訳ではなく、実態としては自由になる資金はそれほど変わらないのではないかと。全体運営会議などでは、そういう資金であるという説明を丁寧にしていただければと思う。
- ・ご指摘いただいたこの点は常に意識しながら、誤解のないよう説明をしていきたい。

2. 平成30年度業務実績報告・評価

資料に沿って説明され、審議された。

【主な意見等】

- ・自己評価のところ、3つのSで続く項目で5つのAがついているが、中にはSとし

てもいいのではないかという印象を受けている。

- ・27年度に自己評価が甘いと厚労省全体の傾向として指摘をされており、その点を踏まえてかなり厳しめに評価をした。
- ・全体評価でよく出来たということでしっかりAを確保することが重要になる。是非、評価部会で力強く発信していただければと思う。
- ・規模が大きくなると、リスクも大きくなることを認識する必要があると思うので、リスクアプローチ、マネジメントにも一層の努力が必要と思っている。

3. 令和2年度投資計画・増員計画について

資料に沿って説明され、審議された。

4. 昇任に伴う昇格時期の見直しについて

資料に沿って説明され、審議された。

II. 報告事項

1. 政府の会議の状況

資料に沿って報告された。

2. 広報実績等

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・各ページそれぞれ特性があり、それぞれで、どれくらいの直帰率等が指標となるかなど、もう少し考察できるといいが、現状ではまだそこまでは行えてはいない。
- ・指標の分析については勉強していきたい。

3. 投資委員会報告

資料に沿って報告された。

4. 5月分月次決算等

資料に沿って報告された。